



2月の花：ウメ

# 事務所便り

令和4年2月号

特定社会保険労務士・行政書士 重村 勝弘  
 重村行政労務管理事務所  
 ご連絡先：〒235-0021  
 ：横浜市磯子区岡村 7-8-15-102  
 電話・FAX：045-754-3412 携帯：070-5542-1466  
 E-mail：[shigemura.office@etude.ocn.ne.jp](mailto:shigemura.office@etude.ocn.ne.jp)

## ●新型コロナ「オミクロン株」の猛威

驚異的な拡大を続けているオムロン株とはいかなる特徴を持っているのだろうか。下表に示す通り、感染力は強烈であり、現在日本での急速な蔓延の原因となっている。ただし、重症化リスクは低いとされている。日本では2回目のワクチンを接種している人は80%近く終わっているが、すでに免疫効果は薄れており、3回目のワクチン接種が必要とされている。

	α アルファ	β ベータ	γ ガンマ	δ デルタ	○ オミクロン
感染力	↑	↑	↑	↑↑	↑↑↑
重症化リスクなど	入院・重症化 死亡リスク 高	入院リスク 入院時死亡率 高	入院 重症化リスク 高	入院リスク 高	入院 重症化リスク 低
ワクチン効果	感 発 重 変わらず	発 重 変わらず	感 発 重 変わらず	感 発 重 変わらず	発 低下 重 ある という報告も 3回目接種で 発 重 も 上がる報告も
	感：感染予防効果 発：発症予防効果 重：重症化予防効果				
	WHOの資料などから作成				

オミクロン株について分かっていることは以下の通りである

### オミクロンについて分かっていること (B.1.1.529)

**特徴**  
 ヒトへの感染力が強く伝播性が高い  
 発症までの期間が短く、今までより短期間に広がる

**症状**  
 のどの痛み、咳、鼻水などの上気道の症状が多い  
 味覚・嗅覚の異常や肺炎はデルタに比べ少ない

**ワクチンへの影響**  
 効果を弱める「免疫逃避」がある。他の変異ウイルスに比べ発症予防効果低く、3回接種で75%の効果(ファイザー)  
 重症感染予防効果はある程度維持

個人の対策	国の対策
3密を回避 マスクをしっかりとつける ワクチンの接種	水際と国内対策の再強化 3回目の接種を進める

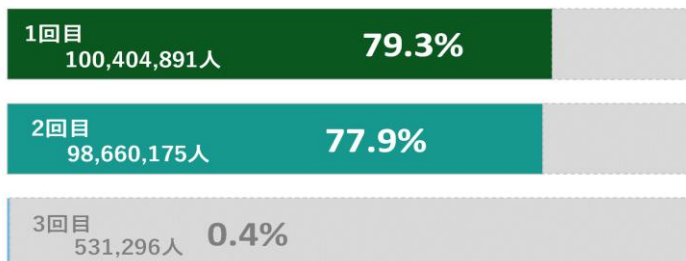
**基本的対策は今までと変わらずに**

対策としては3密を避け、マスクを着用し、3回目のワクチンを早期に接種することである。

## ●3回目のワクチン接種

3回目のワクチン接種は、令和4年1月から6月までの予定です。2回目の接種完了から原則8カ月以上後に接種できるよう、お住まいの市区町村から追加接種用の接種券等が送付されます。初回（1回目・2回目）接種時と同様、実施している医療機関や会場を探し、予約をします。なお、初回と同様に大学等での職域接種の実施も予定されています。最近では前倒しで摂取時期を早める予定です。

### 国内の接種状況・接種人数と接種率



厚生労働省では、ワクチン接種に関する情報提供ページを用意し、相談窓口も設置しています。不適切な取扱いのないよう、あらためてルールを確認しておきましょう。

【厚生労働省「追加接種（3回目接種）について」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_booster.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_booster.html)

## ●ロシアのウクライナ侵攻

いよいよ一触即発の状態を迎えているロシアのウクライナ侵攻に備えて日本を含む西側主要国では大使館の縮小等、対応を進めている。

### ロシアの栄光を取り戻す最大のチャンス

ロシア側から見れば、今のこのタイミングは、ソ連崩壊後、軍事作戦を引き起こす最大かつ絶好のチャンスである。

ラジーミル・プーチン大統領にとっても、自らが「20世紀最大の地政学的大惨事」と語るソビエト連邦崩壊の汚名を返上し、ロシアの栄光を取り戻す、最大で且つ最後のチャンスかも知れない。2000年に第2代ロシア大統領に就任して以来、「強いロシアの再建」を掲げ、欧米がリードする世界秩序に挑戦し続けた。国家を再興し、世界の一極を担う存在に再び咲くためには、ソビエト連邦に勝るとも劣らぬ勢力圏を再構築せねばならない。2001年に中国と中ロ善隣友好協力条約を締結、同年に米国一極支配やNATOに対抗するロシア、中国、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン6カ国の国家連合である上海協力機構(SCO)を設立する。2008年には親米路線に転じたジョージアに侵攻して親ロシア派地域を援護し、2014年にはウクライナのクリミア半島に侵攻し併合、NATOの東方拡大を抑え攻勢に転じ、2015年、ベラルーシや中央アジア諸国とユーラシア経済同盟を発足させて勢力圏の安定に邁進し、着実に勢力圏の維持拡大に努めた。



### 目的は「親ロシア政権の樹立」

今回のウクライナに対する作戦の目的は、「ウクライナの民主化阻止」であり、具体的には「親ロシア政権の樹立」であり、NATOの拡大防止である。22日にはイギリス外務省が新首相候補の実名まで挙げて「ウクライナの政権転覆を狙うロシアの活動が明るみに出た」と機密情報を報道した。実際にウクライナのゼレンスキー政権の支持率は極めて低く、ロシアの諜報機関の工作によって議員の半分近くが親ロシア派で固められたと見ており、ロシア主導に於ける親ロシア政権樹立の可能性は今や高まっていると言って良い。親ロシア政権の樹立し、NATOの拡大阻止さえ出来れば、プーチンはウクライナをロシアに併合する必要などなく、カザフスタンやベラルーシと同様にウクライナ政府と同盟関係を築くことで勢力拡大と安定化が可能となる。

### 今後のプーチンには3つの選択肢

一つ目は、軍事侵攻をすると見せかけてこのまま脅し続け、実際は軍事行動を起こさずに西側諸国の譲歩を取り付ける、

二つ目は、ウクライナの一地域、例えば東部ドンバス地方に小規模に侵攻し、一部を占拠して実効支

配をする、

三つ目は、大規模な地上戦を行い、ウクライナ全域を支配することである。

真の目的が親ロシア政権の樹立であるならば、その近道がどれかと言うことだが、この西側諸国の力の無さと混乱ぶりからすると、一つ目の、脅しのみで西側の譲歩を取り付けかつ同時並行的に親ロシア政権を樹立することは十分に可能と見え、一方でこれを機に完全なる傀儡国家を作るために3つ目の選択肢である大規模な地上戦を行い、キエフ占領まで見据えても、米国の決断力の無さからすれば大した抵抗も無く最大の結果を得られる様にもプーチンには見えているであろう。いずれにせよ明確なことは、圧倒的に優位なのはプーチンサイドであり、どの選択肢を選ぶかの権利は必要なカードを迅速に切る決断力の無かった米国には無く、全てをプーチン大統領が握っているということである。

米国はじめ西側諸国の対応は困難な局面を迎えることとなろう。

### ●オースティン米国防長官「ロシア軍は侵攻可能に」

オースティン米国防長官は28日の記者会見で、ウクライナ国境周辺に集結した10万人規模のロシア軍は「複数の都市や大規模な領土を奪取可能だ」と述べ、プーチン大統領の決断で侵攻が可能な状態だと認識を示した。



ロシアは否定するが、米側は侵攻の可能性を現実的なものとし危機感を強めている。オースティン氏は外交的解決の必要性を訴えた。【写真】ロシア外相、侵攻計画を否定「戦争望まぬ」

緊迫するウクライナ情勢を巡っては、ロシアの提案に米側が文書で回答し、ロシアが求める北大西洋条約機構(NATO)不拡大の確約を正式に拒否。今後も外交交渉は続く見通しだが、プーチン氏の次の一手が注目されている。

一方、米国ではウクライナをめぐる、バイデン米大統領は28日、米軍を東欧に派遣する時期を決断したかと記者に問われ、「東欧と北大西洋条約機構(NATO)の国々に米軍を近いうちに送る。多くはない」と述べた。米軍は約8500人に派遣待機を命じているが、まずは小規模な部隊を派遣する意向とみられる。